

## 世界から学生が集う筑波大学のスポーツ・オリンピック学学位プログラム

筑波大学は体育専門学群を擁し、これまでに多数のオリンピックを輩出、計138個のメダルを獲得してきました。こうした実績による体育・スポーツ分野における教育・研究の蓄積が、本学の大きな強みです。その強みを活かし、筑波大学人間総合科学学術院（大学院）では「スポーツ・オリンピック学学位プログラム（TIAS2.0）」を開講しています。

本プログラムでは、オリンピックやパラリンピックをめぐる理念やスポーツ医科学など、国際スポーツを支える学術分野を体系的に学びます。加えて、必修科目として日本文化を学ぶ授業を設け、希望者は剣道などの武道を体験することができます。海外の学生からも人気のプログラムで、2026年10月に入学予定の第7期生10名はヨーロッパや北南米を含む9カ国から集まっています。

本プログラムは、国際オリンピック委員会（IOC）から認定を受けた教育プログラムのうち、学位取得を伴う長期の大学院プログラムとして国内唯一の取り組みです。また、必修科目であるTIASインターンシップは、文部科学省の「令和7年度大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」において、選考委員会特別賞を受賞しています。

日本政府が推進するスポーツおよびオリンピック・パラリンピックムーブメント普及のための「Sport for Tomorrow」プログラムの一環として、2015年10月から学位取得の長期プログラムTIASがスポーツ庁からの委託事業として始まりました。日本で唯一の「スポーツ・オリンピック学」の学位を取得できる大学院プログラムとして開設され、2019年10月入学の第5期生まで受け入れました。その後、同プログラムのこれまでの実績が学内でも高く評価され、前身のTIASを発展させた形で2020年の10月からは筑波大学独自の教育組織として、「スポーツ・オリンピック学学位プログラム（TIAS2.0）」を設置しました。



（日本オリンピックミュージアム見学）



（IOC関係者による特別講義）

スポーツ・オリンピック学学位プログラムは、毎年 10 月に秋入学で学生を受け入れており、講義は英語で行われます。8 名定員のところ、直近ではその 3 倍程度の出願がありました。学生は 4 つの研究領域(オリンピック・パラリンピック教育、スポーツマネジメント、スポーツ医科学、ティーチング・コーチングと日本文化)のうち 1 つを選択します。必修科目では、オリンピック・パラリンピック競技の制度や運営の仕組み、スポーツマネジメントなどに関する広範な基礎教育を受けます。

また、本プログラムは、修了生ネットワークを活用しながら学びを広げていく「発展型」の教育プログラムであることが大きな特徴です。修了生にオンラインでゲストスピーカーとして講義に加わってもらったりほか、自国の優秀な人材の推薦や、修了生の勤務先でのインターンシップ受け入れを通じて、学生のキャリア形成を支援しています。こうした取り組みが評価され、本プログラムの必修科目である TIAS インターンシップは、文部科学省の「令和 7 年度大学等における学生のキャリア形成支援活動表彰」において、選考委員会特別賞を受賞しました。

筑波大学は今後も、本プログラムを通じて、体育・スポーツ科学分野における教育・研究の成果を社会に還元しながら、国際スポーツの最前線で活躍する人材の育成を進めていきます。



(日本文化の授業風景)



(武道授業での剣道体験の様子)



(福島県の被災地域を視察)

【本件のお問合せ先】

筑波大学広報局報道担当

E-mail: kohositu@un.tsukuba.ac.jp